

# 年報

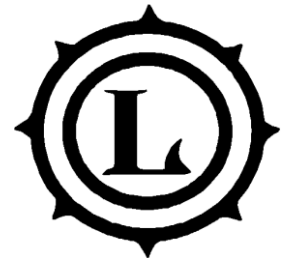
社会福祉法人 日本ライトハウス

理事長 橋本 照夫

〒538-0042 大阪市鶴見区今津中 2-4-37

TEL 06-6961-5521 FAX 06-6968-2059

<http://www.lighthouse.or.jp/>



## 平成28年度 事業報告 (2016年度)

### ◎概 括

平成28年度も引き続き、法人の「基本理念」「職員倫理綱領」「職員行動規範」に基づき、職員が一丸となって心のこもったサービスを提供することに努めました。財政状況が厳しい中、公益財団法人日本音楽財団とフェスティバルホールの主催により、盲導犬育成支援の「ストラディヴァリウス・コンサート2016」が開催され、この大阪公演のチケット売上全額と会場募金を合せ、盲導犬4頭分(本年度2頭+次年度2頭)の育成資金として、1,900万円余を日本音楽財団より受領しました。

視覚障害リハビリテーションセンターでは、平成24年度末に激変緩和措置が終了して以降、きらきらの財政改善が大きな課題となっていました。施設入所支援利用者数の安定化がその鍵を握っていましたが、平成28年度は、前年度より利用登録者数が増加、併せてサービス利用数も増加したことにより収支が幾分改善しました。より手厚い支援が必要な生活介護利用者数の増加、障害の重度化、高齢化などに対応するため、支援に携わるスタッフを増員したほか、浴室内の手すり設置、手洗い所の改修、大型乾燥機の設置など、の整備を進め、サービスの一層の向上に務めました。

情報文化センターでは、障害者差別解消法の施行の流れを受け、情報バリアフリーの推進をめざし、関係機関等に対して点字・録音・電子書籍・音声解説等の公的保障の充実を積極的に働きかけました。

3年目を迎えた文部科学省委託による視覚的資料の「音訳教材」データベースを実用レベルまで追加開発しました。また、平成27年10月、三菱財団より研究費の助成を受けた「音声説明付き三次元地形模型の開発」が完了、実証実験により有用性が証明されました。

引き続き、高度な製版技術を駆使して、教科用図書・点字印刷などを安定的に供給したほか、視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」サポートセンターの業務を引き続き受託しました。

### ◎法人事業の概要

#### —岩橋武夫賞の授与—

アジアにおける視覚障害者福祉・教育等の貢献者に授与される岩橋武夫賞の2016年受賞者は、ミャンマーにおいて障害者の社会参加を当事者として先頭に立って推進しているアウン・コー・ミェント氏に決定しました。

#### —第24回ライトハウス祭り—

11月3日(木祝)、恒例のライトハウス祭りを鶴見事業所で開催、400名を超える地域の方々が参加され、交流を深めました。

#### —チャリティ事業—

第34回チャリティコンサートは、例年どおり大阪城東ロータリークラブの協賛により、6月26日(日)、ヴァイオリン:和波孝禧氏、川島成道氏、指揮:澤和樹氏、演奏:千里フィルハーモニア・大阪により、ザ・シンフォニーホールにおいて開催、1,207名の方々が来場されました。当日の会場募金およびチ

ケット売上げによる収益は、盲導犬育成支援に充当いたしました。

#### —研修・交流・広報事業ほか—

- ・3月14日には、韓国・シロアム福祉会一行が訪日、施設等の見学と意見交換会により交流を深めました。
  - ・日本ライトハウス後援会「灯友会」(桂晴子会長)は、引き続き、バザールやクリスマスコンサートなどのイベント、募金箱の設置協力、年2回の街頭募金などにより、盲導犬育成にご支援くださっています。
  - ・新聞や放送・出版関係、大学の調査研究や博物館の特別展示、企業の社史編纂などにも法人が所蔵している文献や写真などの資料を提供しました。
  - ・引き続き、日本盲人福祉委員会、日本盲人社会福祉施設協議会等の関係団体の役員として法人職員が就任し、協力を行いました。
  - ・引き続き、小学校を中心に、幼稚園から高等学校までの要請に基づいて講師を派遣し、盲導犬啓発活動を行いました。また、企業や公共交通機関等の社員研修で手引きの方法等の実習を担当したほか、関係機関からの要請に応じ、ガイドヘルパー養成研修等に講師を派遣しました。
  - ・例年どおり、職員人権啓発研修会を2回実施したほか、職員全体会、役職者の業務研修等を行いました。
- ◀募金事業に関しては、別冊の『FORWARD』をご覧ください▶

## ◎さまざまなサービスの展開

障害者支援施設日本ライトハウスきらきらでは、施設入所支援をともなう生活介護の事業が定員を満たし、障害の重度化、高齢化などに対応するため、支援に携わるスタッフの増員、浴室内の手すり設置、手洗い所の改修などを行い、職員一丸となって一層のサービスの向上に取り組んでいます。

## ◎寄贈・助成等による機器整備

引き続き、ヴァイオリンの川島成道氏のご寄贈により最新の訓練用機器を整備しました。ロート製菓・かるがも基金より就労支援用機器を整備したほか、盲導犬支援者の重田綾子氏より共同訓練用車輛、盲導犬を育てる会より訓練用車輛に積載するケージを受領しました。立川福祉基金のご助成によりシーラー(熱圧着機)と生産管理用パソコンを整備したほか、イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」により食器棚とカーテン一式を配備しました。また、大阪市の補助金により利用者の安全確保のための防犯カメラシステムを整備しました。

朝生登志子基金積立金および修繕費積立金の取崩しにより鶴見事業所と盲導犬訓練所の照明をLED機器に更新整備したほか、わくわく・生産活動の製品運搬用3トン積載トラック、きらきら・生活介護の大型衣類乾燥機、職業訓練部の構内電話交換機を更新する整備工事を実施しました。

### 1. 日本ライトハウスきらきら

日中活動サービスの内訳は、生活介護(定員15名:登録15名)、自立訓練(機能訓練)(定員19名:登録36名)、就労移行支援(定員6名:登録5名)、施設入所支援(定員30名:登録23名)で、進路の内訳は、復職・就職3名、支援学校等進学9名、わくわく利用9名、家庭復帰5名でした。

きらきらの修了後、居宅支援サービス

や行政機関等との連携を深め、安定した居宅生活を開始できるよう、幅広い支援を行いました。

### 2. 日本ライトハウスわくわく

引き続き、障害者総合支援法に基づく事業所として、創作活動・生産活動・技術訓練(歩行・点字ほか)、スポーツ、特別プログラム(外出行事)などのさまざまなサービスを提供しました。年度当初の登録は96名、視覚障害をともなわない方の新規利用も含めて、年度末の登録者数は105名、年間平均利用者数は37.4名、稼働率は93.6%でした。

JR放駒駅と施設との送迎サービスを引き続き行いました。

### 3. 職業訓練部

14名の在籍者に職業訓練プログラムを提供し、6名が修了・中退(就職4名、求職中1名、帰郷1名)、8名が継続しました。引き続き、就職した修了者の体験を聞く会を開催したほか、就労移行支援利用者の支援、大阪市短期委託訓練等も実施しました。

### 4. 盲導犬訓練部

パピーウォーカー宅へ50頭の飼育委託を行いました。アジア各国の盲導犬協会との間で繁殖に関する協力を進めているほか、訓練士の訓練技術のレベルアップに取り組みました。

(盲導犬貸与 22名 20頭)

### 5. 盲人ホーム(理療実技指導部門)

引き続き理療免許を所持する利用者の技術向上と総合的な資質向上に力を入れて取り組んでいます。

(利用者4名、継続3名)

### 6. 居宅支援センターてくてく

障害者総合支援法の「居宅介護・重度訪問介護」、「移動支援」、「同行援護」、「一般相談支援」、「特定相談支援」の各事業(利用登録延べ113名)、介護保険法の「居宅介護支援」、「訪問介護・介護予防訪問介護」の各事業(利用登録延べ31名)を

実施しました。登録ヘルパー:51名。

## 7. 養成部(指導者養成部門)

○厚生労働省委託 第46期視覚障害生活訓練等指導者養成課程

1年基礎Ⅰ 15名、1年基礎Ⅱ 5名

2年実習 3名、2年応用 4名

○日本眼科医会共催

医療関係者視障リハ研修会 15名

○文部科学省・全国盲学校長会後援

教育関係者視障リハ研修会 2名

○日本盲人社会福祉施設協議会后援

視障リハ基礎講習会(2回) 48名

○訪問指導:奈良県:132回、和歌山県:

220回、宝塚市:112回、兵庫県:53回

## 8. 障がい者相談支援センター・相談室

事業受託2年目を迎えた鶴見区障がい者相談支援センターは、福祉・保健・医療・教育・司法などさまざまな機関や専門職、地域の支援者らとの連携・協働により、虐待や貧困、社会的孤立、権利侵害など重層的で深刻な生活課題を抱えた方々に対して、生活再建、環境調整、権利回復などの支援を行いました。

電話相談:214件、来所相談:81件、相談支援センター受付:163件。

## 9. その他事業

・修了された方々に『ライトハウス通信』を点字・大活字・メール版により1回発行しました。

・広報誌『ぴっかぴか』を2回発行、地域の福祉・医療・各種相談支援団体等にお配りしました。

・登録ボランティアは、138名にのぼり、延べ632件の活動にご協力いただいたほか、企業ボランティアの方々からもご奉仕いただきました。感謝申しあげます。『ボランティアだより』を2回発行しました。

・学校や国内外の関係機関等からの依頼により、引き続き研修生・実習生を多数受け入れたほか、講習会等に職員を講師として派遣しました。

◎サービスの新たな展開

平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」による合理的配慮の義務化の流れのなか、西・東・早川福祉会館点字図書室の3事業所が密接に連携・協力し、全国で10万名(推計)を超える視覚に障害のある方や読書に困難のある方などの必要と希望に応え、“学び、働き、暮らし、楽しむ”ことに役立つさまざまな情報を多様な媒体で製作・提供しました。

とくに本年度は、大阪府眼科医会が窓口となる視覚障害者支援ネットワーク「大阪あいねっと」の構築に協力したほか、児童向けの点字雑誌『アミ・ドゥ・ブライユ』を発刊しました。また、専門的音訳技術と電子書籍の融合をめざす「HyMe(ハイミー・Hybrid Media)事業」が軌道に乗ったほか、三菱財団助成による「三次元地形模型」を開発、実証実験により実用性が確認されました。

引き続き、東事業所を中心とした点字・デージー等出版事業の維持・発展に努めました。早川福祉会館点字図書室の運営業務受託は、3年の複数年契約となり、地域に根差した手厚いサービスの安定的な提供に努めました。

1. 点字・録音図書の製作・受入

(単位：タイトル数)

種別	点字図書	録音図書
製作図書	282	316
委託配布図書	23	59
寄託・その他	8	103
購入図書	8	4
蔵書累計	9,795	16,968
(冊/巻数)	36,771	34,291

2. 図書館サービスの利用状況

(1) 図書館利用者数

大阪市：1,889名 大阪府：1,691名  
他府県：1,250名 合計：4,830名

(2) サービス利用の状況

[貸出サービス] 点字図書 10,942冊、  
テープ図書 5,452巻(図書 5,001、

雑誌 451)、デージー図書 71,582枚  
(図書 58,098、雑誌 13,484)

[対面リーディング] 626件 1,246時間  
[プライベート製作] 点字 143件、音声 64件、テキストデータ 31件

3. 機器・用具サービス

引き続き、用具・機器展示・販売、パソコン指導などを行ったほか、訪問利用支援サービスも実施しました。サービスフロア来室：5,187名、問合せ：3,458件、訪問支援：8件、個人講習：581件。

4. ネットワーク利用支援サービス

視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」のサービスを引き続き受託し、全国の個人会員や施設会員に対して、インターネットによる図書情報等の利用の普及に努めました。年度末登録数：個人会員15,206名、施設会員343団体。

5. 多多数複製点字製作提供事業

(1) 支援学校等向け点字教科用図書製作

視覚障害児童・生徒・学生向けの教材の点字データを製作し、小学部15点33巻、中学部9点41巻、高等部普通科26点170巻、理療科19点76巻の教科用図書を点字・拡大・デージー版で発行、新たに高等部普通科英語副読本として、統一英語点字関連図書を発行しました。

(2) 厚生労働省委託図書貸出配布事業

点字製版 18タイトル・2,920冊、CD製作 13タイトル・949枚、デージー 29タイトル・1,914枚、マルチメディアデージー 8タイトル・528枚

(3) メディア製作センター事業

国立国会図書館による「学術文献録音図書製作作業」を引き続き受託、また、音声だけで映画を楽しむことができる「シネマ・デージー」製作、テレビ番組の音声解説付与などの事業を進展させるとともに、視覚的資料の音訳技術を体系化し、マルチメディアデージー図書の製作技術を融合したHyMe(ハイブリッドメディア)事業に取り組みました。

(4) 各種委託製作他

大阪市・和歌山市等、自治体発行の点字版広報誌の製作を受託しました。また、行政・教育機関等からの依頼による点字印刷・点訳物・点字サイン(プレート類)等を製作・配布しました。

(5) 教材等個別製作

教育委員会や学校の依頼に応えた教材や試験の点訳・墨字訳を受託しました。小学校：9校42件、中学校：2校7件、高等学校1校8件、大学：5校35件、自治体等：28団体71件。

6. 国際協力事業

ダスキン愛の輪基金のアジア太平洋障害者リーダー育成事業に引き続き協力し、スリランカとインドの視覚障害青年2名の研修を行いました。

7. ボランティア・広報事業ほか

西事業所登録ボランティア：540名。

点訳等の講習会を開催したほか、各種講習会等にも講師を派遣しました。

毎月の施設見学会等で19名の方、グループ・団体の個別見学では、52団体、335名の方に施設をご案内しました。

8. 各種情報の提供

視覚障害者情報誌『読書』を年11回、ボランティア向け情報誌『ONE BOOK ONE LIFE』を年11回、専門情報誌『対面リーディング通信』を年6回、『らくおん通信』を年6回、『点訳通信』を年4回、それぞれ発行しました。

9. 早川福祉会館点字図書室

利用登録数：1,090名 ボランティア登録数：358名(音訳197名、点訳161名)

(1) 製作・貸出実績(単位：タイトル数)

種別	製作	貸出
デージー図書	112	51,189
テープ図書	92	3,629
点訳	125	2,062
点字打出し	—	1,778

(2) その他サービス実績

プライベートサービス 688件  
対面読書サービス 152件